

平成30年度 地域連携活動報告書

協定締結日	2018/8/30	連携先名称	大分県竹田市
活動状況	継続中	連携先窓口	竹田市役所農政課ブランド推進室
活動資金	大学予算	担当教員(所属)	山田崇裕 (国際バイオビジネス学科)
活動体制 (単位)	学科	関連教員(所属)	大久保研治 (国際食農科学科) 木原高治 (国際バイオビジネス学科)
活動内容	<p>①「バイオビジネス実地研修(一)」の実施(2018年8月23日～30日)</p> <p>大分県竹田市は、旧荻町時代より長年にわたり「バイオビジネス実地研修」の研修フィールドとしてお世話になっている。2018年度は、上述の期間に国際バイオビジネス学科2年生計10名(男性6名、女性4名)が実習に参加した。学生達は、NPO法人「来ちよくれ竹田研究会」会員の農家民泊と、久住高原に所在する株式会社くしふるの大地研修施設にて宿泊しながら、竹田市の特産品であるカボス、荻トマト、スイートコーンを生産する農業経営体、および地域を代表する優良酪農経営、農業参入企業において収穫・選別・調整にかかる実習に参加するとともに、一部の学生は道の駅「竹田」(農村商社あおば)、高原の店「とまとちゃん」において特産加工品の販売実習に参加した。なお、当該年度の実習では、本学姉妹校からの留学生1名が参加し、それまで習得した日本語を生かして地域住民と積極的にコミュニケーションをとりつつ、日本の中山間地域農林業の実情を学んだ。</p> <p>②学生による「銀座のかぼす収穫祭」(於：紙パルプ会館屋上)の支援活動(2018年9月17日)</p> <p>大分県竹田市は、東京都に活動拠点を有し、年に一度、銀座の一等地屋上においてかぼす収穫祭を開催している。この収穫祭は、都市住民に対して竹田市および大分県の特産品と加工品をPRする場であり、毎年盛会である。2018年度は、①「バイオビジネス実地研修(一)」に参加した学生2名が収穫祭のサポーターとして活動を行った。</p> <p>③「竹田式サフラン栽培の伝統と革新」(於：竹田市グランツたけた)の開催(2019年3月29日)</p> <p>主催：竹田市・農研機構食農ビジネス推進センター、共催：大阪大学共創機構社学共創本部・東京農業大学、協力：竹田市サフラン生産出荷組合・栃本天海堂・福田商店・ポニーの里ファームとして、表題の研究会が開催された。当研究会では、専門研究者から竹田産サフランが有するブランド性をアピールできる品質の科学的根拠を、世界市場サフランとの比較に基づき紹介されるとともに、その品質特性を活かした「薬食同源」の実践でつなぐ地域振興のあり方について報告がなされた。</p>		
活動成果	<p>竹田市と本学の間で包括連携協定が締結されてから間もないが、学生による実習や研究交流が展開されている。特に、学生実習「バイオビジネス実地研修(一)」については、竹田市特産品の生産・加工・流通の実態を網羅的に体験するだけでなく、学生自らが我が国における中山間地域農林業の現状や地域資源を活用した地域振興、農産加工品のブランド化のあり方を俯瞰的に学ぶ機会があるなど、教育効果は高いといえる。また、過去の実習生を含め、本実習を経験した学生の多くは農業関連企業・団体への就職を実現しており、本実習はキャリアパス形成の契機にもなっている。2019年度は引き続き「バイオビジネス実地研修(一)」を継続することになっており、県内唯一の農業高校である県立久住高原農業高校の生徒と本学実習生の交流も新たに行われる予定である。</p>		
課題・改善点	<p>今後は、学生実習「バイオビジネス実地研修」や学生による銀座かぼす収穫祭の支援のみに活動範囲を限定せず、竹田市の地域資源の発掘・活用を前提とした農林業、観光業等の振興に資する研究活動および各種PR活動を、竹田市役所やJA、各事業者と協議・連携しながら展開していきたい。</p>		